

### 第3次茅ヶ崎市子ども読書活動推進計画の評価方法について

#### 1 第2次計画における評価のふりかえり

##### (1) 目的・手法

市が進行状況の確認及び検証を毎年実施し、協議会へ報告



庁内における自己評価をもとに協議会が評価を実施し、意見書を公開



協議会の意見を受けて連絡調整会議で意見交換を行い、事業改善に努める

##### (2) ふりかえり

- ア 評価そのものが目的になっていないか
- イ 市・協議会双方の作業量は適当か
- ウ 評価書は、協議会へ報告する、説明責任を果たす意味合いが強い。発行後の活用がなされたか
- エ 事業の改善につながったか
- オ 写真があるとわかりやすい
- カ 協議会委員の意見
  - ・質的な評価の分析が必要（「なぜ読む?」「なぜ読まない?」を問う）
  - ・子どもの読書の現状把握が必要

#### 2 第3次計画における評価のあり方

本日いただく協議会の意見をもとに連絡調整会議で検討し、第2回定例会で最終案をお示しする予定です。

##### (1) 評価の目的（参考：行政評価）

- ア 職員の意識改革
- イ 説明責任の遂行
- ウ 事業の見直し、改善

目指すのは、「うちもやってみよう」というアクション（行動）に繋がること  
（＝職員の意識改革）  
「やったこと」を拡げていく

- (2) 数値目標 第2次計画と同様にグラフ化する
- (3) 家庭へのアンケート 理由を自由記述にして、テキストマイニングで分析する
- (4) 「とりくみ」の報告  
おススメしたい・自慢したい工夫や取り組み、好評だった事業を1～3つ以内で報告する（紙面の圧縮を図るため）。定型様式に依らず、写真やチラシ、事業報告書を積極的に活用する。  
学校の「とりくみ」を学校から報告できる方法の検討（現在は学校教育指導課に照会）。
- (5) 意見書 中学生に読みやすい文章で、分量は1～2枚
- (6) 教育委員会の点検・評価結果報告書（参考）  
「3－4 情報拠点としての図書館の充実」を参考として掲載
- (7) 連絡調整会議の活用 事業報告を中心に情報交換を行う